

会 議 録

1 会議名

令和5年度第6回吉川区地域協議会

2 会長挨拶

3 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）会長報告

（2）委員報告

（3）事務局報告

・協議事項（公開）

（1）「上越市立吉川地区公民館東田中分館の廃止について」の諮問に対する答申について

（2）「上越市立吉川地区公民館勝穂分館の廃止について」の諮問に対する答申について

（3）「上越市立吉川地区公民館泉谷分館の廃止について」の諮問に対する答申について

（4）自主的審議事項等について

・吉川区地域活性化の方向性について

（5）その他

・視察研修について（阿賀野市（11月20日（月）予定））

・総合事務所からの諸連絡について（公開）

・その他（公開）

4 開催日時

令和5年10月19日（木）午後6時30分から午後7時55分まで

5 開催場所

吉川コミュニティプラザ 3階 大会議室

6 傍聴人の数

0人

7 非公開の理由

なし

8 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：五十嵐豊、薄波和夫、江村奈緒美、大滝健彦、片桐利男、佐藤 均、関澤義男、高野幸夫、中村正三、橋爪正平、平山浩子、山岸晃一

- ・事務局：吉川区総合事務所

風間所長、平山次長、山本市民生活・福祉グループ長（教育・文化グループ長兼務）、平原総務・地域振興グループ班長、霜鳥総務・地域振興グループ主任

9 発言の内容（要旨）

【平山次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・委員 12 人の出席を報告
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・会議録の確認：高野委員

【山岸会長】

- ・挨拶

【平山次長】

- ・議長の選出について、上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 1 項の規定により山岸会長から議長を務めていただく。

【山岸会長】

- ・次第 3 報告事項(1)会長報告であるが、10 月 12 日に開催した勉強会は 4 人の委員が欠席したが、本日審議する答申案、地域活性化の方向性、研修会について、検討・確認した。
- ・まちづくり吉川から 11 月 12 日開催の東京吉川会・総会案内が通知された。コロナ禍前後で招待者に違いはあるようだが、10 月 29 日の米沢訪問や道の駅の活性化により吉川区内に人を呼び込みたいと考えていることを話したい。
- ・続いて(2)委員報告をお願いします。
(案件は無かった。)

【山岸会長】

- ・続いて(3)事務局報告をお願いします。

【平原班長】

(資料 1「北諏訪区の地域活性化の方向性について」に基づき説明)

【山岸会長】

- ・続いて4協議事項協議事項(1)「上越市立吉川地区公民館東田中分館の廃止について」の諮問に対する答申について、(2)「上越市立吉川地区公民館勝穂分館の廃止について」の諮問に対する答申について、(3)「上越市立吉川地区公民館泉谷分館の廃止について」の諮問に対する答申について、事務局から報告する。

【平原班長】

- ・10月2日に正副会長と各部会代表者が答申の素案を作り、10月12日の勉強会で委員から素案を確認いただき、本日、資料2「答申案」として配付した。諮問は、分館毎に1通となるが、3分館共通の答申案を確認いただきたい。(以下、資料2に基づき説明)

【山岸会長】

- ・質問意見はあるか。

【薄波副会長】

- ・日付はどのようになるか。

【平原班長】

- ・本日付けとなる。

【山岸会長】

- ・他にあるか。

【関澤委員】

- ・解体はどのように行うか。自然に壊れるのを待つのか。地域の安全を考え、廃止後は早く解体し更地にして欲しい。クマやイノシシが入り住民に危害を加える様な場合、行政は対応してくれるのか。

【山岸会長】

- ・それについては社会教育課の宮崎参事や山本グループ長からも説明があったが、答申案の1にも「適切な管理をお願いします」と記載されている。関澤委員が心配されているようなことにならないよう行政が責任をもって管理するとのことだと思うので、そのように理解していただきたい。

【五十嵐委員】

- ・泉谷分館は地権者に土地を返すが、地権者から建物の在り方に要望が出ているか。グラウンドの土地を返すのであれば答申案の2は不要ではないか。

【山本グループ長】

- ・泉谷分館の土地は借地であり、建物は地権者から早目に目途をつけて欲しいと言われている。建物がある限り借地料が発生し、また、地域からの除却要望もあるので、私どももできる限り早く対応したいと考えている。

【大滝委員】

- ・グラウンドも地権者のもので使えなくなるのか。であれば答申案の2「今までどおりの使用を許可いただくとともに」は不要ではないかと思う。

【山本グループ長】

- ・土地はほぼ全て地権者のものであり、借地契約を解約すればグラウンドも使えなくなる。

【山岸会長】

- ・東田中分館と勝穂分館はそのままと認識している。泉谷分館はどのようにするか。

【風間所長】

- ・泉谷分館の答申案の2を削除するよう変更したい。

【山岸会長】

- ・他になれば、(4)自主的審議事項等に移る。「道の駅活性化」について、皆さんの意見をお聞きする。先日の勉強会に観光振興課から青柳副課長を招いて話を聞いたが、地域の施設であり現時点では具体的な構想がない。今後、道の駅活性化検討委員会で案を作るが、地域独自予算事業を想定して、三和区や頸城区のように事業主体を市とする中で、看板とモニターテレビを導入したいという方向で話を進めてきた。道の駅の活性化は緑地を含めた道の駅全体で、という我々の考えがあり、一度に全て整備は難しいと考え、まずは看板とモニターテレビを取り付けてもらうよう進めてきた。しかし、区内から申請の上がった独自予算の中で市が実施主体となっている事業が一つもない。地域協議会が提案団体となり、大乘寺町内会が実施主体として進めてきた大乘寺の歴史伝承事業を去年から続ける事業として道の駅の活性化につなげようと考えている。どうやって進めれば具体的に(道の駅の活性化へ向けて)動くのかの考えをお話しいただきたい。

【片桐委員】

- ・先日の勉強会で「まちの駅」の看板はあるが「道の駅」の看板はないという話をしたところ、青柳副課長が「2つとも性格は一緒なので、市が責任をもって『まちの駅』の看板を『道の駅』に変える」ようであると言った。もう一つは、梶十文字のところに県道標識の空いているところに「尾神岳」と入れて欲しいと話したが、県の持ち

物なので難しいという話となった。看板と情報発信は長峰の道の駅を重点的に行って欲しい。

【大滝委員】

- ・モニターとか情報発信は良い話だと思う。以前も観光協会の方とその話を出していたが、市と考えが一致したのはよかったと思う。活性化委員会で地元なら地元で話をしていただくのはよいが、なかなか進まないのであれば、他からプロデュースを求め、構想を練っていただければよいと思う。市は、「それは入れないでおこう。」と言っていたが、本当に構想が浮かばないのであれば、その方向しかないと思う。トイレについて、24時間空いているトイレにウォシュレットはないとの話であった。道の駅の定義として、トイレがあって休憩所があって情報提供所があるとあるが、その中で新潟県内ではトイレが（店舗や観光施設などと）独立したところではウォシュレットがないようにも思えるが、長野県にはあるように思える。なければ県内で最初に作ってもよいのではないか。作らない定義があればそれは構わないと思うが、トイレがきれいでないとも人も来ないし、建物の中にトイレがあった方が回りを見るので良いと思う。トイレが独立しているとトイレだけの用で終わってしまう。外観の問題もあると思うが、トイレから（人が施設に流れて）儲ければ良いと思ったので、この前はその話をさせてもらった。

【江村委員】

- ・道の駅の方々が考えて発信して変えていくことが本来の姿であると思う。より多くの人に来てもらったり、色々な意見を反映したりするには、外からの意見を聞くのが良いと思っている。自分の知人で若い子育て真最中の3人位が、あるるん畑に行かないでこちらに来ると聞く。吉川に結構行くという人もいたので、利用している若い方の意見を聞く場を設けたらどうかと思っている。大滝委員の、どこかからプロデュース力のある人を連れてくるのはよい意見だと思う。利用する若い人の意見を取り入れて何かするという事はできないだろうかと思う。

【五十嵐委員】

- ・改装できないなどハード面（の制約）で（発想が）縮まってしまう。その枠を取り払えば色々な意見が出ると思う。その取り払い方、ここなら良いというところが見えればはっきりしてくると思う。その中でトイレの改装とかアイスクリーム建屋とか。トイレが外にあることはデメリットもあればメリットもある。将来的にその周りにキャンプ場ができたりプレイランドができたりするとそのトイレを使うようになる

ので、なくしたくはないと思う。今、近くにあるラーメン屋が道の駅に入れば、人が集まるかもしれないと思っている。ある程度ハード面を伴った大改造が必要と考える。ソフトだけで行けば、専門的な人を含めて検討すると。道の駅はその地の特徴が出ていないといけない。吉川の特徴は酒と米と水である。特徴を上手く表現できる施策が必要ではないか。一緒になってできるように努力したいと考える。

【佐藤副会長】

- ・トイレをきれいにする。この施設は情報発信施設である。特化してはどうか。「吉川はこれだ」というものを磨いて進めるべきだと思う。あるものを上手く利用して、地元が関わらないとなかなか伸びないし、他所から持ってきてやっても、地元が賛同しなければ中々難しいと思う。

【薄波副会長】

- ・市内3つの道の駅が連携できないかと思っている。そうすればハード面でも市の予算を付けやすいと思う。情報発信はもちろん、情報収集もしっかりと行い、それを分析し、構想を立ててから進む必要がある。プロデュースに専門家の考える部分を含めて検討したらよいと思う。

【関澤委員】

- ・勉強会で「皆さんの意見が一致したら」と言っていたが、その様な構想など成り立たない。何十年たってもできないと私は考えている。会長が描いた構想図の様なものを行政からも提示してもらうべきと思っている。皆が構想図を描いたらどうかと思う。言葉より具体的に動かなければ駄目で、それには予算が必要だ。たたき台がなければ進まない。それがないなら、専門家の意見を取り入れるべきだ。

【高野委員】

- ・情報発信が第一である。高田で「吉川はどこにある？新潟県？」と尋ねられる。建物の動線が悪い。EV充電施設の位置が悪い。トラックの駐車場のところは店もない。何もない。そういう所を改善していかなければならない。四季菜の郷の「野菜がなくなったら終わり」も改めていったらいいと思う。

【中村委員】

- ・活性化検討会でまとまった話をしてもらうのが一番よい。しかし、当事者が他人事であると感じた。駅長を含め取りあえず現状維持という雰囲気があった。その辺を改善しなければ前に進まないのではないかと思った。それから、大滝委員の話もあったが、視察でリーダーシップのある駅長がいた。あの様な形で引っ張っていかな

ければならないと思う。トイレに対する改善案やその他の問題も同じである。単に専門家を外部から招くことも今後考えるべきであろう。それでも、まずは当事者に発表して欲しいと感じた。

【橋爪委員】

- ・数少ない客の滞在時間を伸ばす方法、例えば子供連れのお客を遊び・食事などで1時間以上滞在させる方法を活性化検討委員会で検討すればいいのではないかと思った。

【平山委員】

- ・県内にいくつか自分達で方向を決めて元気になった道の駅があるので、吉川の道の駅も現状維持でなく、市と駅長が気合を入れてもらわないと区民もがっかりしてしまう。応援団などは、結局中心となっている市から引き受けていただきたい。

【山岸会長】

- ・市が本腰を入れてもらわないと予算が伴うものなので、なかなか厳しいと思うし、道の駅となると国土交通省・県など他から引っ張れるものがないかと思う。活性化委員会では、現存4団体を含めて委員が構成されているが具体的な進め方をどのように考えているか。我々はスピード感をもってやりたいと思い、地域独自予算の大乗寺良海の案件は残念ながら市が実施主体とならなかったが、あのエリア全体を活性化するには、あの4団体は自分の組織運営で精一杯だと思う。杜氏の郷に駅長がおられるが、民間企業となり、多くをお願いすることは難しい。また、活性化委員会からはスケジュールを含め市の考えが伝わってこない。柿崎区の五十嵐グループ長にはお話したが、改めて所長からお話ししていただけないか。

【風間所長】

- ・活性化検討委員会が検討を始めている。関わる方がそれぞれアイデアを出して検討会をもって具現化していく方向性となっている。勉強会の後、検討会を始めるよう打ち合せを行っているので意見をいただきたい。そこでプランが出来上がれば何が必要か分かり、形になってくると思う。

【山岸会長】

- ・前倒しで進めて欲しいと思うし、地域協議会の地域の活性化の方針にも尾神岳観光と道の駅の活性化を載せた。尾神岳観光は意見書を出す予定であるが、道の駅の活性化も実施主体は市であるため、勉強会でも緑地の議論はいい雰囲気・お話しに入っているため、市の観光振興課にも本腰を入れていただくよう市議会議員の何人かにもお願いしている。県議会議員にもお願いしている。我々ができることの一つに

サポータークラブの立ち上げもある。できることをやれる方でお手伝いすることがボランティアと考える。意思のある方で結成できればと思う。規約は作るが、堅い組織にはしないつもりである。民間交流である米沢の大乗寺と吉川大乗寺を深く結びつけるために地域独自予算を提案した。29日の米沢大乗寺交流に参加される方はお知らせいただきたい。これが我々民間でやれるレベルかなと思うので、後は行政が本腰を入れて過疎債も含む過疎地域である吉川にある道の駅の活性化を実現していただくべく包囲網を仕上げていきたいと思っている。

【関澤委員】

- ・活性化検討委員会は形だけだ。記録を見ると平成30年に関係者意見交換を2回、令和元年8月、年に1回しかやっていない。月1回進める検討委員会であればよいが、形だけ。どこまで進んだのか、間の抜けた会、何も前に進まない会。会長の言われたとおり、活性化をやる熱のある有志が固まっていけないとできない。謙信公生誕500年が迫った中でこの大きな行事をやると市長に話した。今回は、先発で米沢に行き、来年は地域独自予算で米沢から来ていただいて、本拠地春日山を見てもらって米沢との交流を進める。今までのやり方はおかしいと言いたい。

【山岸会長】

- ・今回の米沢行を含めて吉川の活性化につながれば、吉川に何があって何をもとにして人の交流が活性化するか、地域が賑わいをもてるのか、我々ができることをやりつつ、行政に本腰を入れてもらえるようグイグイ意見を申し上げるしかない。

【関澤委員】

- ・基本的に世のため人のためだ。名誉も何もない。これをやれば少しずつでも前に進むのではないかという期待の中で今回米沢へ自費で行くが、その上をお汲み取りの程お願いする。元気の良い年寄りがいることをお見知りおきのほどお願いする。

【山岸会長】

- ・行政は活性化委員会を前向きに進めていただいて、12日の勉強会ときにはアドバイザーを入れる考えはないとの話であったが、観光振興課がどうしたらお金を出してくれるのかお願いしたい。一緒に声をあげていかなければいけないと思う。
- ・次に(4)自主的審議事項等について「吉川区地域活性化の方向性について」、事務局説明願う。他区ではもう作成済みとのことで、住民アンケートの結果も十分方向性に含まれているので、今日、成案としてよいかお伺いしたい。

【平原班長】

(資料3に基づき説明)

【山岸会長】

- ・異議がなければ、この案のとおり吉川区地域活性化の方向性を決定してよいか。

(異議はなかった。)

【山岸会長】

- ・(5)その他の視察研修について、事務局説明願う。

【平原班長】

- ・10月12日の勉強会で視察研修の実施と、行き先は子育て支援や移住者対策に力を入れている「阿賀野市」と委員の皆さんから決定していただいた。日程は11月20日としたので、報告する。正式な案内、出欠確認は、改めて案内する。

【関澤委員】

- ・帰り時間はいつごろか。11月20日は定例会にしてはどうか。

【山岸会長】

- ・同日に定例会も続けて開催することに事務局支障はないか。

【平原班長】

- ・16時30分頃には事務所に到着する見込みである。支障はない。

【山岸会長】

- ・11月20日に視察から帰って来て定例会でよいか。

(承認する声有り。)

【薄波副会長】

- ・時間は流動的であれば、公開はどのように行うか。

【山岸会長】

- ・遅くとも18時30分前の時間を公開することでよいか。

(承認する声有り。)

【山岸会長】

- ・次に、5総合事務所からの諸連絡に入る。

【平原班長】

- ・吉川区地域福祉活動計画実施委員会から、「吉川区地域福祉活動計画アクションプラン」に関するアンケートの回答依頼が来ており、山岸会長と事務局で回答を作成し、返信したいので了承願う。

【山岸会長】

- ・次に、次第6その他に入る。委員から何かあるか。

【関澤委員】

(新潟県生活学校連絡協議会のイベントについて、情報を提供)

【五十嵐委員】

- ・10月29日の米沢ではしっかり意見をし、結びついてきていただきたい。米沢の謙信会館は規模も大きく資料も沢山展示されている。六万部にも大乘寺という地名がある。それについて分かれば、また、教えていただきたい。

【山岸会長】

- ・他にないか。
(案件等はなかった。)

【薄波副会長】

- ・以上で第6回地域協議会を閉会する。

10 問合せ先

吉川区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL:025-548-2311 (内線213) E-mail:yoshikawa-ku@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。